

# 憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2026年4月16日(木)

NO. 1672号

本号3頁

## 自民党大会、高市首相「憲法改正、時は来た」改憲発議に意欲 「改正の発議にめどが立った状態で来年の党大会を迎えたい」

自民党は12日、高市早苗首相（党総裁）の就任後としては初めてとなる党大会を都内のホテルで開きました。首相は憲法改正をめぐり、「日本人の手による自主的な憲法改正は党是だ。時は来た」と主張。「改正の発議にめどが立った状態で来年の党大会を迎えたい」と語り、国会での改憲議論を加速するべきだとの認識を示しました。

首相は国会での改憲議論について、「議論のための議論であってはならない。国民の負託に応えるためには、決断のための議論を行うべきだ」と述べました。さらに、「新たなページをめくるべきかどうか、国民に堂々と問おうではないか」と呼びかけました。ただ、個別の改正項目については言及しませんでした。

首相はまた、安定的な皇位継承をめぐり「現行制度のもとでは皇族数の減少が避けがたく、皇室典範の改正が急がれる」と言及。「男系で皇統が継承されてきた歴史的事実が天皇の権威と正統性の源だ」として、「皇族に認められていない養子縁組を可能とし、皇統に属する男系男子を皇族とする案を第一優先として国会の議論を主導する」と述べました。

また、党大会では昨年11月に結党から70年を迎えたことを受けてまとめた党の「新ビジョン」が発表されました。自らを「国民政党」と改めて規定し、「特定の階級やイデオロギーを代弁する政党ではないことが広範な支持を得ることができた一因」だと分析。憲法改正については「今後30年の国の安全保障を考える上でも、これまでになく死活的に求められている」と強調しました。

採択された今年の運動方針では今国会で衆院の定数を削減する法案の成立をめざすとした。「政治とカネ」の問題をめぐっては政治資金について「透明性・公開性のいっそうの強化を図る」とし、首相の総裁任期である来年9月末までに必要な法制上の措置を講じるとしました。

### 維新の会吉村代表出席

日本維新の会の吉村洋文代表が出席しました。「1年前に党大会がこの場で行われたと思うが、まさか1年後、維新の代表がここに立つとは皆さんも想像していなかったと思う。私も当時は想像していなかったが、これは運命であり、必然だ」と述べました。

### 改憲踏み込み、戸惑う自民 独断即決「高市流」に不満

高市早苗首相（自民党総裁）は12日の党大会で、憲法改正をめぐり「発議にめどが立った状態で来年の党大会を迎えたい」と踏み込みました。参院で過半数を割り込むなか、1年程度で国会発議にめどをつけるのは容易ではなく、唐突な打ち出しに党内には戸惑いも広がっています。独断即決で進める政権運営に 対して、党内では冷めた空気がただようと、朝日は報じています。

高市首相にとって憲法改正派思い入れの強い政策の一つ。無就任後初の党大会で意欲を示す狙いがあったとみられます。ただ、党幹部は「事前に聞いていなかった」と明かしています。「来年の統一地方選挙まで、あまり無理できないだろう」との声も漏れます。

衆院は自民単独で3分の2を超える議席を持つが、一参院では3分の2おろか、半数にも満たない状況です。鈴木幹事長は「憲法は国の基本法だ。スケジュールありきで進めることにはならない」と語っています。

党内には「何を考えているか分からない」と疑心暗鬼が広がっています。首相は党幹部らへの根回しや相談をほとんどせず、党とのコミュニケーションが乏しいことが背景にあると言われます。

「意に反すればクビが飛ぶ」との恐怖心が広がっているとか。公然と首相を批判することはないが、積極的に支えようとする熱意も乏しいのが実態のようです。

## **「私は行司役だ」「立ち会って勝負をつける役でもある」と古屋氏**

衆院憲法審査会の古屋圭司会長は9日、国会内で開かれた保守系団体「日本会議」の国会議員懇談会であいさつし、憲法改正の国民投票がこれまで実施されていないことは「国民が憲法改正に『賛成か、反対か』を主体的に意思表示する機会を奪っている。立法府の不作為だ」と述べました。その上で「憲法審で丁寧に速やかに集約していくのが私の責任だ」と述べ、早期の憲法改正の発議に意欲を示しました。

古屋氏は「私は行司役だ」とした上で、「自分が相撲を取るわけにはいかないが、立ち会って勝負をつける役でもある」とも述べました。

## **米国とイランの停戦協議「合意に至らず」**

バンス米副大統領は12日、仲介国パキスタンの首都イスラマバードで11日から続けたイランとの協議で「合意に至らなかった」とし、帰国の途につきました。米側が求めた核開発の停止をイランが拒んだと主張し、焦点となっているホルムズ海峡の通航に関する協議内容は明らかにしませんでした。米側が「最後の提案」を示しており、イランの出方を待つ段階だと説明しました。

協議後、バンス氏が現地で記者団に述べました。イスラマバードへの到着後、協議は「21時間」に及び、「イラン側と多岐にわたる実質的議論を交わした」といいます。バンス氏は「イランが核兵器を持とうとしない」「核兵器を速やかに得ることを可能にする手段も持とうとしない」ことをイランが「明確に確約する」ことを米側の「中核的目標」として要求した、と説明しました。しかし「イラン側が、我々の条件を受け入れようとする状況には至らなかった」と語りました。

核不拡散条約（NPT）に加盟するイランは、条約が認める平和目的の核開発の権利を主張する一方、核兵器の開発は否定してきた。トランプ米大統領は昨年6月のイランに対する攻撃で核施設を「完全に破壊した」と主張。今年3月にはギャバード米国家情報長官も、昨年6月以来「イランは（核開発に必要なウランの）濃縮能力を再建することは試みていなかった」と米議会に説明していた。バンス氏は、核兵器の開発能力について「今とかこれから2年とかではなく、長期にわたり」イラン側が持たないことを求めている、と述べました。

### **■イラン側「重要な2~3の事項で意見に隔たり」**

一方、イラン代表団を率いたガリバフ国会議長は12日、SNSで「（イランは）将来を見据えた構想を提示しましたが、米国側はイランの信頼を得ることができなかった」と投稿。「今こそ、我々の信頼を得るのかどうか決めるときだ」とし、イラン側の条件を受け入れるよう求めました。

イランのタスニム通信によると、イラン外務省のバガイ報道官は「いくつもの論点で理解に達したが」「重要な2~3の事項では意見の隔たりが残っている」とし、ホルムズ海峡の開放を巡って立場の違いがあると例示しました。

一方で、「外交に終わりはない」として、今後も協議を続ける可能性を示唆しました。

パキスタンのダール副首相兼外相は声明で、「米国とイランが、持続的な平和と繁栄を実現するべく前向きな姿勢を維持することに期待する」とし、「双方が停戦への取り組みを引き続き維持することが不可欠だ」と訴えました。

今回の協議は、1979年のイラン革命後、断交した米国とイランとの間で、最上位の高官級による対面の協議となりました。仲介国パキスタンも協議に加わりました。2013年9月に当時のオバマ米大統領と米国滞在中のイランのロハニ大統領が協議したが、この際は電話でした。

## **トランプ氏「米海軍はホルムズ海峡の封鎖をただちに開始する」と表明**

トランプ米大統領は12日、戦闘終結に向け米国とイランが行った協議が12日に合意できないまま終了したのを受け、自身のソーシャルメディアへの投稿で「米海軍はホルムズ海峡の封鎖をただちに開始する」と表明しました。米中央軍はイランの港湾への出入りについて、米東部時間13日午前10時（日本時間同日午後11時）から「封鎖」と発表しました。

トランプ政権はイランへの圧力を強めるが、イラン側は原油輸送の要衝、ホルムズ海峡の「管理権」を主張し、米軍艦が海峡を航行すれば「厳正に対処する」との方針も示しました。米メディアによると、米政権は事態の打開を図るため、限定的な攻撃の再開を検討。武力衝突が再燃したり、世界経済がさらに混乱したりする懸念があるとしています。

米中央軍によると、封鎖は、イランの港湾に出入りするすべての船籍の船舶が対象になる。一方、イランに出入りせずホルムズ海峡を通過しようとする船舶の通航は妨げられない。米中央軍は11日に機雷除去に向けた取り組みを始め、ミサイル駆逐艦2隻が海峡を通過したと明かしています。

トランプ氏は投稿で「国際水域でイランに通航料を支払ったすべての船舶を捜し、阻止するよう指示した」とし、通航料を支払わないよう求めた。他国も封鎖に関与することになるとも主張しました。米FOXニュースの番組で、米国による封鎖は「すぐに効果が出るだろう」と説明。一方、日本や韓国が海峡への依存度が高いと言及し、「彼らは我々を助けなかった」と改めて批判しました。

イランの精鋭軍事組織・革命防衛隊は12日、ホルムズ海峡に近づこうとする軍艦は「停戦合意違反」とみなすと主張しました。その上で、海峡はイラン海軍の管理下にあり「特定の規則に従って、非軍用船の航行のために開放されている」と指摘しました。

## **8日 国会前のデモに呼応して**

### **全国各地で戦争や改憲に反対するデモ**

#### **◇北九州市小倉駅前でも「平和憲法を守りっっちゃ！ うちの緊急アクション in 北九州」**

参加者は「NO WAR」などのメッセージやペンライトを手に平和への思いを示しました。

市民団体「平和をあきらめない北九州ネット」などが呼びかけました。

ネコの絵入りの「アメリカとイスラエルは攻撃をやめろ」とのメッセージを手にした同市小倉南区の女性（50）は、初めて街頭で平和を訴える活動に参加。3人の子どもを持ち、イラン情勢の緊迫化を前に、日本が戦争に巻き込まれるのではないかという不安が強まったという。「何とか声を上げたいと思った」と話しました。

#### **◇JR大阪駅に2000人集まり「戦争反対」「9条守れ」とデモ**

反戦や憲法を守ろうと訴えるデモが8日、関西を含めて全国的に実施された。大阪でもJR大阪駅周辺に約2000人が集まって「戦争反対」「9条守れ」などと訴えました。ミナミにも数百人が集まりました。

団体では自民党が衆議院で圧倒的多数の議席を占めていることから、改憲に向けた動きが加速することへの懸念を表明しています。

大阪駅前の集まりに参加した大阪市の会社員女性（30）は、デモ初参加。保守的な家に育ったというが「憲法改正で緊急事態条項を入れたり、スパイ防止法を制定したりするのは言論の自由に対する弾圧と感じる。政権に賛成するわけにいかない」と話しました。

#### **全国に広がる「平和守れ」「憲法守れ」のペンライト行動参加の若者の声**

- 高校2年生の男性 「平和な日本を100年先も続けるため、憲法をまもりたい」
- 中学3年と小学5年の姉妹 「9条・平和主義を変えられたら、私たちが戦争に行くことになるかもと不安。私でも戦争反対ということが大切と思い参加した」
- 3歳児を抱えて参加した母親 「イランへ先制攻撃した米国は正当化できないのに、高市首相がトランプを支持するのはおかしい」
- 初めてマイクを握る女性 「イランの小学生がたくさん殺され、苦しくなりました。それに抗議しない高市さんに怒りを感じる。早く戦争を終わらせたい」
- 初参加の30代の女性 「高市首相になって戦争に向かっていくようで怖い。一人でも多くの人が反対すべきだと思って参加しました」
- 初参加の27歳の男性は「集団的自衛権を制定してきた自民党に反対したい」
- 19歳の男子学生 「どんどん戦争へ道を進んでいて、この状態で何も言わないのは肯定することになると思う。反対の意思を示すためにここに立ちました」